

地元説明会質問事項

○法吉地区

平成 24 年 2 月 7 日（火） 18:30~20:00 30 名参加

- 中川の近くに住んでいるが、1981 年に法吉神社の近くに家を建てたが、その当時中川は危ないと聞いたので、地盤をかさ上げして建てた。その後、平成 7 年の災害でも道路が 50cm 浸水し、駐車場も浸水した。
中川は拡幅すると聞いているが、その後どうなっているのか。
→中川の河川改修事業は昭和 56 年から始まっており、現在市道西原春日線(神田橋)下流の工事を行っています。来年度以降市道西原春日線(神田橋)上流の工事も行っていく予定です。
- 河川計画規模フローの評価の見方が分からない。
→計画規模を設定するにあたり、県では、流域面積、想定氾濫区域面積及び想定氾濫区域の宅地面積、人口、資産額、工業出荷額からそれぞれの評価地を定めています。この評価値の平均値から計画規模を設定しています。
- 昨年 10 月に放水路案の陳情を行った。その際知事から今年の 3 月に検討委員会の結論が出るかといっていたが、結論が出るのか。
→現在、今年度末に次回委員会を予定しており、そこで事務局より治水計画案を示す予定です。よって、結論が出るのは来年度になります。
- 以前北田川水門に 10 t のポンプを設置する予定であると聞いた。しかし、松江堀川に宍道湖からの塩水を導水しているため、朝酌川に流すことができない。
10 t のポンプはどうするのか。
→北田川水門につきましては、おっしゃられたとおり松江堀川浄化の為塩水を導水していることから朝酌川に流すことは難しいと考えています。
内水対策につきましては、現在末次ポンプ場に 10 t、上追子に 5 t ありますが、検討を行ったところ、上追子に 5 t 追加することで床上浸水は防止できる結果となっております。
- 放水路案にはポンプはつけないということであるが、宍道湖と松江堀川の水位は一緒であるため、放水路とポンプはセットで考えてもらいたい。
→放水路は、「自己流対策」として実施するものです。「内水対策」としてのポンプとは切り離して考えています。

- 昭和 47 年災害から今日まで目についた工事をしたのは最近のように思える。今までどのような対策を行ってきたのか。
→斐伊川では、上流の尾原ダム、志津見ダムを行っており、志津見ダムは昨年度、尾原ダムは今年度末に完成します。また、斐伊川放水路についても、来年度末に完成する予定と聞いています。また、大橋川につきましても、昨年 8 月より追子地区の工事を開始しています。
また、県につきましても、朝酌川、北田川下流区間の暫定改修、四十間堀川下流部の改修を行っており、現在は、中川の改修も行っております。
- この治水計画案は今後どれくらいの期間で計画が実行できるのか。絵に描いた餅にならないか。。。こういった説明会はもっと早くやってほしかった。
→国交省が今後 20 年間の整備計画を立てており、その中で工事を進めていきますが、朝酌川につきましても、整備計画では大橋川の河床掘削を行わないため、今後 20 年間は現状のままとなります。
この間は、中川を含む松江堀川の改修やポンプや流域対策の整備が中心となります。朝酌川・北田川の改修については、概ね 20 年後の斐伊川の次期河川整備計画を踏まえたものとなります。

○城北地区

平成 24 年 2 月 10 日（金）19:00~20:40 9 名参加

- 今後の事業費等、見通しを教えてください。
→当面 20 年間の改修計画を河川整備計画として、来年度策定します。
- 北高グラウンドの整備内容を教えてください。
→外周に 60 cm 程度の壁を設置する予定です。中川左岸側を一部低くし、中川のピーク流量を一部グラウンドに遊水することにより、松江堀川へピーク流出量をカットする予定です。実施設計はこれからですが、実施にあたっては、事前に詳しく説明します。
- 桜川も整備を行うのか。
→道路浸水する箇所があるため、道路事業と併せて整備します。
- パブリックコメントの回答数について、松江全体で 22 件は少ない。どのような方法で意見募集したのか。
→公民館への配布や新聞・インターネットでの PR を行いました。

- 計画規模 1 / 80 で計画されているが、県内の他河川はどのくらいの規模で計画されているのか。
→ 斐伊川などの大河川では、確率規模も大きく 1 / 150 です。県が管理する中小河川では松江堀川の 1 / 80 はダム等のない河川としては最大です。
- 松江市街地治水計画の資料が閲覧できる場所はないのか。また流量に関する記載があればなお良い。
→ 河川課ホームページにより閲覧できます。
- 大橋川改修の状況を教えてほしい。
→ 追子地区から改修をスタートしており、今後 20 年間で大橋川の拡幅などを進めていきます。
- 東奥谷地区の普通河川（名称等不明）について、出水時に水が流れない。浚渫やため池の設置で対処してほしい。また、湘北台団地は洪水調整池がないため、雨が降るとすぐ溢れる。
→ まずは普通河川の合流先である松江堀川の整備を行い、その後小河川にも目を向けていきます。（松江市）
- 京橋川水門、北田川水門の操作等について
塩水を導水しているため、いつも閉門しているが、開かれるのか。
→ 操作は、朝酌川との水位差により開閉しており、H21 洪水時には開けています。
- わずか 22 件の意見で % 表示をするのは、いかがなものか？
→ 参考までに表示しています。件数が少ないという認識はあり、そのために出前講座を行っています。

○城西地区

平成 24 年 2 月 14 日（火） 18:30~20:00 18 名参加

- 橋の架け替えとはどのような対策か。
→ 松江堀川の橋梁の中には前出しされている箇所もあります。そこで、前出しされている橋梁部を上下流の川幅に合わせて拡幅することです。

- 交融橋は現在交通量がとても多いだけでなく、通勤・通学者も多い所であるが、車道特に歩道が狭いため、歩行者、自転車が非常に通りにくい。また、架設されてかなりの時間が経過しているため構造的なことも心配である。架け替えを計画するにあたっては、河川管理者だけでなく道路管理者と一緒に考えていただきたい。

その時には、月照寺橋も考えたほうがよい。

→架け替えにつきましては、拡幅や質的な改良も考慮し、道路管理者と一緒に検討していきます。
- 松江市は昭和 47 年に水害が起きてからも大橋川の改修ができていないから、宍道湖の水が上がって浸水している。

市民としてはちょっとした雨でも防げるような対策を考えてほしい。

→松江市街地で想定される氾濫タイプは、外水氾濫、内水氾濫、自己流氾濫の3つに分けられ、それぞれの氾濫に対する対策を行わなければいけません。今回お示しした治水計画案は自己流氾濫に対しての対策になります。外水氾濫に対しては大橋川の改修、内水氾濫に対しては、内水処理施設の整備を行っていきます。
- 放水路を新設すると末次ポンプ場はどうなるのか。ポンプ場との関係は。

→放水路を新設してもポンプ場はそのまま使用します。
- 平成 18 年災害で向島川周辺から浸水しているが、その低い堤防は整備しないのか。

→大橋川改修は国（出雲河川）が実施する工事です。昨年 8 月より追子地区の工事を開始され、工事完了後は向島川周辺の工事を行う予定になっています。
- 松江市街地は様々な氾濫形態があるが、松江市はすぐに中に溜まってしまうため、上流からの水を貯めることができるため池や調整池の整備を考えたほうが良いと思う。

→ため池や洪水調整池につきましては、効果の高い施設を優先的に整備を進めていく計画としています。
- 宍道湖や松江堀川の河床にたまっているヘドロ等を撤去することはできないのか。

→宍道湖につきましては、ヘドロ等を撤去しても治水上あまり効果が無いように思われます。また、松江堀川につきましては、河床を掘削すると護岸の根入がなくなるため、護岸も改修しなければいけなくなることから、家屋移転等周辺に影響が出てくる可能性があります。
- 宍道湖大橋北詰の東側左岸に、シジミ漁の船だまりがあるが、堤防が切れているところがある。平成 18 年洪水では、そこからマンションの駐車場に入ってきた。

また、昔の溝の凶面から当時の状況を把握できれば治水対策にも使えるのではないか。

→現地を確認します。（松江市）

- 大橋川や松江堀川に流れる家庭・事業排水は、浄化槽を通していない所が多いのではないか。そういった対策をすれば、ヘドロ対策にもつながるのではないか。
→ご指摘の地域は公共下水道が100%整備されており、浄化槽を使用している家庭等は公共下水道に未接続なので、市担当部局に接続を促すよう取り次ぎます。
- 治水計画案は、3案から選択するのか。
→今回お示した3案および委員会での大放水路(6.9m)を基本に、検討委員会に図ります。
- 北田川水門は常に閉まっていると思われるが、北田川水門が開くことがあるのか。
→北田川水門は、松江堀川浄化の為塩水を導水していることから、朝酌川下流の農地を考慮し常に閉めております。しかし、洪水時に朝酌川より北田川の水位が高いときには、水門を開けております。
- 放水路は穴道湖の水位が上がれば効果がなくなるのではないか。
→穴道湖の水位が低いときには放水路から水を流しますが、おっしゃられたとおり穴道湖の水位が上がれば水を流すことができなくなりますので、その時には水門を閉め内水対策として末次や上追子のポンプを稼働します。
- ハザードマップを作成しているが、現在ほとんどの家庭が持っていない。また、今のハザードマップは現実に合っていないため、城西地区だけで作成しようと考えている。
→ハザードマップは全戸配布しておりますが、住民の方々への周知が足りないと感じていますので、今後も情報発信していきます。
- ハザードマップについては、HPに公表する等もっと情報発信してほしい。
→現在HPに掲載しておりますが、住民の方々への周知を徹底するため、今後も情報発信していきます。